

「個人的な挨拶」

2018年11月06日

ローマの信徒への手紙 16章1節～5節 ケンクレアイの教会の奉仕者でもある、わたしたちの姉妹フェベを紹介します。どうか、聖なる者たちにふさわしく、また、主に結ばれている者らしく彼女を迎え入れ、あなたがたの助けを必要とするなら、どんなことでも助けてあげてください。彼女は多くの人々の援助者、特にわたしの援助者です。キリスト・イエスに結ばれてわたしの協力者となっている、プリスカとアキラによるしく。命がけでわたしの命を守ってくれたこの人たちに、わたしだけでなく、異邦人のすべての教会が感謝しています。また、彼らの家に集まる教会の人々にもよろしく伝えてください。わたしの愛するエパイネットによるしく。彼はアジア州でキリストに献げられた初穂です。

ローマ書 16章前半では、個人名を挙げて、挨拶が書かれている。「〇〇によるしく」と30人以上の人々へ挨拶を送っている。16章は、ローマ書とのつながりで書いたとは考え難い。一度も訪ねたことのないローマ教会に、これだけの知人がいるとは思えない。最も長く、3年間宣教したエフェソ教会宛ての手紙の一部が、本書の末尾に付け加えられたのではないかという説もある。古代社会で旅する時、必要とした「紹介状」が、ここに挿入されたのではないかと思われる。ローマ書とは、関係ないと理解してよいだろう。ただし、名前を上げられた人々は、キリストに仕え、パウロの宣教に協力を惜しまなかった人々で、パウロは感謝を込めて挨拶を送っていることに間違いはない。そこで、聖書に登場して、パウロとの関係が分かる人々をピックアップして、紹介したい。豊かで、逞しく、信仰を生きさせた人々の姿は、今日の私たちの信仰を励ましてくれる。

「プリスカとアキラによるしく。命がけでわたしの命を守ってくれたこの人たちに、わたしだけでなく、異邦人のすべての教会が感謝しています。また、彼らの家に集まる教会の人々にもよろしく伝えてください。」プリスカとアキラは夫婦で、使徒言行録 18章1節、2節に、「その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った。ここで、ポントス州出身のアキラというユダヤ人とその妻プリスキラに出会った。クラウディウス帝が全ユダヤ人をローマから退去させるようにと命令したので、最近イタリアから来たのである。パウロはこの二人を訪ね、職業が同じであったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった」と紹介されている。夫婦は、聖書に4回、登場しているが、妻の名前が先に書かれていることが2度ある。古代は、男性優位な社会であるから、夫の名前を先に書くことが普通であろう。プリスカはプリスキラとも言い、ローマの名家の姓らしい。夫アキラはユダヤ人で、パウロと同じく、テント造りの職人である。テント造りは羊の皮を鞣めして造る、下層労働者の仕事であった。家柄、身分の違う男女がなぜ夫婦になったのか。美しく想像すれば、信仰において二人は結ばれた。ユダヤ人の夫アキラがローマからの退去を命じられ、二人はコリントに来た。一方パウロは、アテネのアレオパゴスで、哲学者たちを相手に知恵を尽くして説教したが、無残に失敗し、傷心の思いで、コリントに来た。この時、3人は出会った。テント造りをしながら、パウロは、宣教の愚かさに立って、十字架のみを語ると決意し、立ち上がった。夫婦は命がけでパウロを守ったのである。そして、夫婦は、どこに住んでも、家を解放し、礼拝を捧げ、信仰を同じくする者たちを励まし続けた。パウロだけでなく、全ての人々から感謝されている。このような人が教会を真に支えているのである。